

■香月泰男 戦前すでに知られていたが、シベリア抑留で帰国後は、生涯故郷にあって、その体験を描き続けた。

かつきやすお

大逆事件判決1911＝ 山口県大津郡三隅町久原下で、曾祖父の代より医業を営む香月貞雄・八千代の長男(独り子)に生まれる。

明治天皇没・1912＝ 1歳：

21ヶ条要求・1915＝ 4歳：父母が協議離婚し、母が一時家を出、祖父母と叔父に育てられる。

本格政党内閣1918＝ 7歳：三隅村立明倫尋常高等小学校に入学。友達と遊ぶより一人で過ごすことを好み、遠縁にいた雪舟の流れを汲む雲谷派の末裔の素描に興味を持ち、**早くも、絵描きになる決心をする。**

大暴落・・・1920＝ 9歳：

原敬首相暗殺1921＝10歳：母は香月家を出る。この頃、初めてクレヨンを手にする。

水平社結成・1922＝11歳：すでに家を出ていた父が朝鮮で客死。

関東大震災・1923＝12歳：祖母が死去。

護憲三派圧勝1924＝13歳：卒業し、正明市町に新設された山口県立大津中学校第一期生として入学。

治安維持法・1925＝14歳：母が再婚し、島根県津和野に嫁す。

金融恐慌・・・1927＝16歳：津和野の母に初めて手紙を書き、油絵の道具一式を無心。**初めて油絵を描く。**

世界恐慌・・・1929＝18歳：卒業。東京美術学校西洋学科を受験するも失敗。上京し、叔父の家に下宿、**本郷の川端画学校に通う。**

満州事変・・・1931＝20歳：叔父の転勤で、小石川の寄宿舎(日独館)に移る。実母との交流が深まり、帰省の折、津和野に立寄ることも。**東京美術学校西洋学科に入学し、藤島武二教室に入るが、強引な教育に反発する一方、**

国際連盟脱退1933＝22歳：**梅原龍三郎に傾倒、梅原主宰の国画会展に「雪降りの山陰風景」を出品するも落選。**

帝人疑獄事件1934＝23歳：**\*前年と同題の別作品「雪降りの山陰風景」を出品し、梅原と福島繁太郎の責任推薦で入選。**

芥川直木賞始1935＝24歳：[日独館]を出て本郷の[二勇館]に移る。**「雪庭」入選。以後注記無い作品は、国画会展に出品のもの。**

二二六事件・1936＝25歳：卒業。北海道庁立俱知安中学校の美術教師赴任。**卒業制作「二人座像」が文部省美術展覧会鑑査展で入選。**

日中戦争始・1937＝26歳：

健保+総動員 1938＝27歳：山口県立下関高等女学校教諭に転任、藤家婦美子と結婚し、下関市に居を構える。**「猫」入選。**

第二次大戦始1939＝28歳：長男が誕生。**「犬」「少年」入選し、国画奨学賞。国画会新人展に選ばれ「白花」を出品。文展で「兎」が特選。国画会会員庫田?(てつ)との交流が始まり、佐屋宗達を再認識、庫田の仲介で梅原・福島の知遇を得る。国画会会員庫田?(てつ)との交流が始まり、佐屋宗達を再認識、庫田の仲介で梅原・福島の知遇を得る。**

大政翼賛会・1940＝29歳：

日米開戦・・・1941＝30歳：次女が誕生。**「枝・山脈」「門・石垣」。第四回文展に「釣り床」を出品するも落選。**

・・・1942＝31歳：祖父が死去。「水鏡」「釣り床」。**\*文展で「水鏡」入選。召集令状を受け、**

創価学会検挙1943＝32歳：**「帰途」「砂上」。山口西部第四部隊に、丙種合格者としては初の入隊で、満州国ハイラルに配属。軍事郵便で家族に淡彩スケッチ入りの便り。軍務の合間に油絵を描き始め、時々家族に水彩絵具や油絵具を送るよう依頼、また家族の手で、入隊前に準備していた「波紋」が文展に出品される。福島繁太郎から激励の手紙。**

年金+総武装 1944＝33歳：

敗戦・・・1945＝34歳：**国内の全美術団体展が公募中止に。上等兵になる。文部省戦時特別美術展に「ホロンバイル」出品。ソ連軍の満州侵攻にともない奉天に移動し、朝鮮に南下中、日本の全面降伏を知る。ソ連軍捕虜となって、クラスノヤルスク地区セーヤの収容所に入れられ、持ち物検査で絵具箱を没収。森林伐採作業に従事。**

新憲法公布・1946＝35歳：

画家であることがわかり絵具箱が返され、軍医の妻の肖像画をはじめ色々な画の注文を受ける。コモナールの収容所、さらに奥のチェルノゴルスクの第一収容所に移動、倉庫や新収容所の建設などに従事。

新憲法施行・1947＝36歳：**\*帰国が決まり、引揚げ船で舞鶴に到着し生家に戻る。途中、前年に母が死去していたことを知る。下関高等女学校に復職、宿直室に寝泊まりして教壇に立つ。後にシベリアシリーズ第一作となる「雨<牛>」制作。**

極東裁判決・1948＝37歳：

三大事件・・・1949＝38歳：**次男が誕生。山口県立深川高等女学校に転任。国画会展に復帰第一作として「雨<牛>」「風」を出品。「埋葬」「水浴」で、サロン・ド・ブランタン賞。福島繁太郎が設立したフォルム画廊で初の個展を開催、**

朝鮮戦争始・1950＝39歳：**「朝」「昼」。朝日新聞社主催第一回朝日秀作美術展に前年個展出品作「つくろい」「たそがれ」が選ばれる。美術団体連合展に「頭骨」「白木蓮」を出品。以降没するまで、年一回フォルム画廊にて新作を発表する。国画会の同志と型生派美術家協会を結成し、第一回展を開催。**

独立回復・・・1951＝40歳：

第二回朝日秀作美術展に選抜された「白木蓮」がロックフェラー夫人に買い上げられ、初めて海外に出る。第一回サンパウロ・ビエンナーレに「室内」を出品。

マーゲ-事件・1952＝41歳：

「春」「夏」。第一回日本国際美術展に「仕事場」、パリのサロン・ド・メ展に「人と箱」「裸婦」他、カーネギー国際美術展に、日本からの十五人の画家の一員として選ばれ、「朝」を出品。萩の吉賀大眉窯で絵付けを試み始め、長門市深川三之瀬の窯に通うようになる。吉賀大眉作陶・香月泰男作画展を開く。

TV放送始・・・1953＝42歳：

自衛隊発足・1954＝43歳：第二回日本国際美術展に「ペンキ職人」「電車の中の手」出品。下関市長府博物館で はじめての回顧展開催。文藝春秋社(文学界)の表紙原画(8か月分)。第一回毎日現代日本美術展に「青年」「鳩と青年」を出品。

55年体制始・1955＝44歳：

この頃から**画材に方解末、炭の粉の使用が始まる。**

国連加盟・・・1956＝45歳：

初めて石版画「猫柳」制作。第二回現代日本美術展に後にシベリア・シリーズに入る「左官」出品。**福島繁太郎の勧めで渡欧、南仏から始まり、ピカソのアトリエを訪問後、スペインに向い、**

なべ底不況・1957＝46歳：

**イタリアからスイスに入り、パリに戻る。アントワープから大西洋、パナマ運河、太平洋経由して、油彩八十点・水彩五百点を携え、方解末と炭の粉を画材とすることに自信を深めて、帰国。**

インスタレーション・1958＝47歳：

個展で前年死去した梅原龍三郎の息を追悼する「告別」を発表。自宅を改築。解体された古材を利用して、後年「香月泰男のおもちゃ」と呼ばれるさまざまな小オブジェを制作。

美智子妃・・・1959＝48歳：

個展の「ダモイ」「北へ西へ」、日本国際美術展の「1945」以降、ほとんどがシベリア・シリーズ関連作品。

安保闘争・・・1960＝49歳：

**依願退職し、画家活動に専念。福島繁太郎が死去。「涅槃」のエスキースを携えて弔問。**

タイタイ病始・1961＝50歳：

**日本国際美術展に「涅槃」を出品。福島繁太郎追善を意図して、初めての大幅な近作展を開催。**

全国総合計画1962＝51歳：

朝日秀作美術展に「黒い太陽」が選ばれる。**パリの画廊で初の海外個展(渡航はせず)。国画会を退会。**

TV宇宙中継始1963＝52歳：

朝日新聞(新人国記・山口編)のカット。国体スポーツ芸術展の委員を委嘱され、メダルの原画。

東京リンピック 1964＝53歳：

次女が結婚。現代日本美術展に「餓」を出品。**前年個展出品作「久原山」が文部省買い上げ。**

大学紛争始・1965＝54歳：

朝日秀作美術展に「伐」「鋸」が選抜。翌年に向け、毎日新聞山口県版連載(山口県戦後史)のカット絵。

いざなぎ景気1966＝55歳：

長男が結婚。九州産業大学芸術学部油絵科主任教授となるがすぐに辞める。ニューヨークのジャパン・ソサエティの招待で夫人同伴で渡米。パリでピカソ八十五歳の回顧展を見て帰国。

美濃部都知事1967＝56歳：

神奈川県立近代美術館で東京美術学校同期の「高山辰雄(日本画)・香月泰男(洋画)展」開催。**\*画集「シベリヤ」が刊行され、記念展が巡回開催。NHK特集番組(鎮魂の画集・戦争と絵画)に出演。**

震ヶ関ビル・1968＝57歳：

月刊誌(新潮)の表紙画十二点。NHKラジオ番組人生読本(私の戦争画)、東京12チャンネル(私の昭和史)に出演。西日本文化賞。谷川俊太郎と詩画「旅」刊行。**この頃より、心臓の発作がおきるようになり、孫を主題にした母子シリーズが多くなる。。**

全共闘ロー・1969＝58歳：

新潮の第一回日本芸術大賞。{香月泰男の玩具展}をフォルム画廊で開催。

大阪万博・・・1970＝59歳：

立花隆が口述筆記で「私のシベリヤ」刊行。「香月泰男<シベリヤ・シリーズ>展」。福島慶子編「香月泰男のおもちゃ筐」刊行。「おもちゃと版画による香月泰男展」。

トルシヨク・・・1971＝60歳：

長女が死去。石版画集「母子」「裸婦」刊行。母校明倫小学校に壁画「愛情」「遊ぶ子供」を制作。ハイラルより家族への葉書を収録「海拉爾通信」を刊行。「シベリア画集」。**以後、夫人同伴で、全国、世界各地を旅行し、**

石油ショック1973＝62歳：

NHK総合テレビ番組(女性手帳)「絵に託す抑留生活」に出演。木版画集「タヒチ」、石版画集「モロッコ」刊行。

角栄金脈辞任1974＝63歳：

県内ドライブし生母の再婚先だった津和野にも立ち寄ってまもなく、自宅で**心筋梗塞のため没した。**

別冊太陽「香月泰男」,